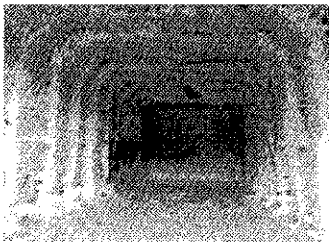


フジタ、トンネル工事技術転用

ダム撤去連続穿孔工法

フジタは17日、トンネル工事で花こう岩などの固い岩盤をくさびで割るための溝を切る連続穿孔技術「FONDドリル工法」をコンクリートダムの撤去工事に適用したと発表した。国内初の撤去



事例となる荒瀬ダム（熊本県八代市）の堤体に同技術で深さ1・2層の溝を切り、油圧くさびを打ち込んで破碎する作業を繰り返し幅4層、高さ5層分の放水トンネル2本を掘削した。

堤体に空けた放水トンネルは長さ17層で、下流側から15・3層を同工法を適用して掘削。貯水側に取り付けた水位低下ゲートの水密性を確実に保つため、残り1・7層は小型掘削機を使って施工した。

同工法は山岳トンネル工事で発破装薬孔を空けるための穿孔機にガイド機能がある独自のFONDドリルを取り付けて作業する。まず1本穿孔してSABロッドと呼ばれる心材付きの鋼管を挿入、2本目以降はビット（刃物）を鋼管に接触させて回しながら穿孔することでガイド機能を発揮させる。この繰り返しで溝を切っていく。

FONDドリル工法でダム堤体に空けた放流口

つため、残り1・7層は小型掘削機を使って施工した。

同工法は山岳トンネル工事で発破装薬孔を空けるための穿孔機にガイド機能がある独自のFONDドリルを取り付けて作業する。まず1本穿孔してSABロッドと呼ばれる心材付きの鋼管を挿入、2本目以降はビット（刃物）を鋼管に接触させて回しながら穿孔することでガイド機能を発揮させる。この繰り返しで溝を切っていく。